



日本キリスト教団  
三軒茶屋教会

# 三軒茶屋 教会通り

〒154-0024  
第25号 2005年12月発行 東京都世田谷区三軒茶屋1-31-5  
TEL/FAX: (03)3418-4933  
発行: 三軒茶屋教会

今年の十月、米国の一黒人女性の死が報じられました。その名はロザ・パークスさん(九二歳)。彼女は、あのM・L・キング牧師と共に米国の現代史に名を残した人です。

今からちょうど五〇年前、一九五五年十二月一日(木)、曜日は今年と同じ。アラバマ州モンゴメリー市でデパートの裁縫師の仕事を終えたパークス夫人は、帰宅するためにいつものバスに乗りました。当時、区分けされていた後方の黒人席の一番前に座った

のですが、途中で白人席がいつぱいになり、白人乗客に席を譲らねばなりません。しかし、彼女はこれを拒否したために、その場で逮捕されたのです。

これを知った有色人向上協会のモンゴメリー支部は、市内のデクスター・アベニュー・バプテスト教会に着任して間もなかったM・L・キング牧師を中心に、バス・ボイコット運動に踏み切ることを決議しました。そのことを四日(日)各黒人教会で徹底し、五日(月)早朝から実行に移されたのです。せめて六〇%の黒人

## 五十年前、 歴史は動いた

### 牧師 陣内厚生

がボイコットに協力してくれたら大成功と思っていたキング牧師は、自宅前を通る一番バスが空っぽ、そして市内のすべてのバスに黒人が乗っていないことを見た時、奇蹟が起こったと感じました。その夜開かれた五千人の大衆集会で、彼の講演は、以後十数年に亘って展開されることになる公民権運動の指針とも言える内容のものでした。

曰く、「この事件が誠実なクリスチャンであるパークス夫人に起こっ

たことは幸運であった。私たちに許されている唯一の武器は、非暴力による抗議でなければならない。これは民主主義の栄光であり、権利である。もし私たちの運動が間違っているなら、合衆国憲法が間違っていることになり、また全能の神が間違っていることになるのだ。愛の傍らには正義が存在しているのだ」と。

これをきっかけに、市当局やさまざまな団体との話し合い、そして脅迫や暴力的イヤがらせが始まります。



十七日(土)以降も連日もたれた交渉の席で、白人メソジスト教会のS牧師(人種隔離主義者)は、運動から手を引くように迫り、「今はクリスマス前の季節だから、……」とたしなめました。しかし、二十五日(日)の黒人教会のクリスマス礼拝は、真の救い主を確信した、画期的な盛り上がりとなったのです。以上が五〇年前の十二月の出来事です。

その後の運動は、一年後にバス・ボイコット事件は解決。しかし、キング牧師主導の公民権獲得運動は、長い道のりを歩みます。自宅を爆破されたり、逮捕されたりの繰り返しの中に、キング牧師の願いは一定の

成果を得ました。ワシントン大行進における「私には夢がある」という演説は、世界の心を揺さぶりました。しかし、凶弾に倒れたキング牧師の遺したものは、人間の尊厳と愛することの大切さであります。

五〇年前の、あのパークス夫人の「NO」がなかったなら、キング牧師がいなかったなら、この正義の歩みは進まなかったでしょう。今の時代、私たちは何を大切にしていくべきでしょうか。